

令和4年3月町議会定例会

## 教育長 教育方針演述要旨

西和賀町教育委員会



日頃より本町の教育行政の推進に関しまして、議員各位をはじめ、学校・保護者・地域の皆様方から、力強いご支援をいただいていることに感謝申し上げます。

本日、ここに「西和賀町議会定例会」が開催されるに当たり、令和4年度の教育行政推進の大要について申し上げます。

教育委員会は、「未来を拓き 地域を愛する人を育てるまちづくり」を基本目標に掲げる「西和賀町教育振興基本計画」に基づき、その実現のため、「生涯学習」、「学校教育」、「生涯スポーツ」、「歴史や文化」の4つの分野ごとに定める基本方針のもと、教育行政施策の具体的な取組を進めてきたところであります。

特にも令和3年度は、教育の持つ力で「町民の生きる力を育み、人と人の心の絆と町民の一体感を作る」ことを使命として取り組んで参りました。

振り返ると、「生涯学習関係」では町民の皆さんのニーズ

とデジタル社会に対応できる学習、また参加者相互の交流を図ることを目的として各種の「町民大学講座」や「高齢者大学講座」、「スポーツ交流会」等を開催して参りました。中でも通信機器活用の講座では、高齢者の方々がスマートフォンを食い入るように見つめ、友人や子・孫とのコミュニケーションを図ろうと懸命に取り組む姿がありました。

「絆」を紡ぎたいという願いを改めて知ることとなりました。沢内庁舎の改修に伴い移転した太田図書室では、読書環境の整備と事業を展開して参りました。新刊を待ち望む方々や、子どもたちが大人の膝の上で本をのぞき込みながら想像力を育む姿と、その様子を見守る方々の笑顔が見られました。また文化創造館「銀河ホール」を町民の誰もが気軽に足を運んでもらう施設にしようと、西和賀町の文化や歴史等に触れた「自主公演事業」を開催し、皆さんと楽しくも感動のあるひと時と、町を思う気持ちを共有していただくことができました。

「学校教育関係」では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により学びを止めないことを第一として対応して参

りました。教職員にはICT機器についての研修の機会を提供し、導入したタブレット端末を活用した学校と家庭をつなぐオンライン学習を可能とする準備をいたしました。家庭に留まることを余儀なくされた生徒に対し、いち早くオンラインでの授業を行うことができたことは大きな成果でもありました。また、コロナ禍で十分とは言えなかったものの、各保育所（園）・学校の努力により森林学習、稲作体験などの地域と触れ合う学習活動や、保育所（園）から高校までの切れ目のない学びを保障する授業と教師間の研修の場である「ジョイントスクール」事業を行って参りました。その結果、釜石地区の小中学校との交流を育んだり、学習やスポーツ等の様々な資質・能力を測る各種調査で県や全国の平均値を上回る成果を残したりすることができました。さらに、中高生がスキーやボートの種目において全国大会の出場を果たしたり、地区中学校新人野球大会では湯田・沢内中学校の合同チームが地区優勝を飾ったりするなど沢山の活躍がありました。西和賀高校生は「西和賀まち・ひと・しごと魅力図鑑」の制作を通して町民と交流を

深めたほか、今年度も進学や就職で希望を叶え、将来の夢や目標に向けて羽ばたこうとしています。

一方で、ボランティア活動を通して学校を支えて下さっている方から「私たちの活動は本当に役立っているのか教えて欲しい」という問いかけもありました。「一体感」を目指す者として重く受け止めなければならない問いでした。子どもたちのために町のために共に歩んでいただいている方々と成果を実感し、喜びあう経験を積み重ね、この問いに絶対に応えなければならないと痛感させられた一言でした。

令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、物理的に人と人との距離を置くことを求められることが容易に予想されます。感染対策をとりながらこれからも教育の力で「生きる力を育み、人と人との心の絆と町民の一体感を作る」ことを使命とし、より多くの町民の方々に地域の多様な学びに関心を寄せていただき、主体的に町づくりに参画していただけるよう教育行政を推進して参ります。

それでは4つの基本方針にそって、令和4年度の教育行政における具体的な方向性について、述べさせていただきます。

## ○「生涯学習の推進と環境づくり」について

町民が「生きがいと誇り」を持てるよう教育の面から支援いたします。

まず、自ら学ぶ学習機会の保障としての「自主的学習」についてです。今年度も「町民大学講座事業」や「高齢者大学講座事業」等を継続的に実施し、学習意欲の高揚と健康教育を支援して参ります。読書推進では、川尻、太田の図書室を「第2次西和賀町子どもの読書活動推進計画」の拠点として取り組んで参ります。ニーズに対応した新刊図書の購入、閲覧しやすい図書室の整備、併せて読書ボランティアによる読み聞かせや読書会等の活動を通して、読書の楽しさと意義を感じていただき、生活の中に読書の時間を位置づけていただくことを目標に推進して参ります。

次に、現代的課題及び本町の地域課題の解決を図るため

に行う「社会教育」においては、「町づくり出前講座」を中心に、生活に役立つ事業を推進して参ります。特にも公的な情報収集や手続き等の技能の習得を目的にICT機器の活用による「情報教育」を推進します。若い世代から高齢者まで、急激に進むデジタル化社会で少しでも困り感を抱かせず、便利さを享受できるよう学習の場の提供を進めて参ります。

地域の教育力向上につながる「教育振興運動」については、令和4年度から各学校への設置が求められている「コミュニティ・スクールの導入」を関連付け、組織・役割のあり方を検討し、改善を図って参ります。

また、令和4年度は「西和賀町男女共同参画プラン」の改訂の年になります。町民の皆さんの意識の変容やご意見をまとめその調査結果を公表し、改めて意識の高揚を図るとともに、性差によらず一人ひとりが大切にされる住みよい社会づくりのための検討委員会を立ち上げ、実効性のあるプランの策定を推進して参ります。

## ○「未来を担う子どもたちの生きる力を育む学校教育」について

令和4年度から町内全ての学校で、子ども達の成長を支えていくことをねらいとし、学校と地域住民が力を合わせて学校の運営に取り組むことができる「コミュニティ・スクール」を立ち上げます。これは学校の方針や運営に対して保護者や地域の皆さんが意見を述べたり承認したりすることが保障された協働体制をもつ「地域とともにある学校」のことです。その基盤の上で未来を担う町の子どもたちが自ら生き生きと学び、夢を持ち、それぞれの人間形成と自己実現に向けて、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身につけて行けるよう支援して参ります。

まず「知」に関しては、一人ひとりが生かされる授業を推進します。全ての児童生徒に導入されたタブレット端末を授業で有効に活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」を進め、指導と評価が一体化した授業づくりに努めて参ります。

そのために、全国学力学習状況調査や県学習定着度状況

調査等の諸調査の結果を分析し、各校の実態に応じた学力保障の対策を進めて参ります。また今後も数学・英語の各種検定料の公費負担と、グローバル化社会に対応できるよう英語講師の2人体制を維持し、教科「英語」の学習活動の充実を図ります。

学びや生活に困り感を抱く児童生徒への対応としては、特別支援教育支援員を継続して各学校に複数配置します。また中部地区の特別支援教育の中核を担っている花巻清風支援学校及び本町の健康福祉課等と連携し「教育支援委員会」を年4回開催し、「誰一人取り残さない教育」を推進します。

次に、「徳」についてです。コロナ禍における現状を鑑みて「誹謗・中傷の無い学校生活」に向け、教育活動全般を通して、より一層「人権教育」に力を入れていきます。

また、「特別の教科道徳」を要として道徳性の育成を図るとともに、「職場訪問・体験」、「自然体験」、「ボランティア体験」等への参加を促し、互いを尊重する感性と実践力を育んで参ります。

3つめの「体」に関しては、運動習慣・食習慣・生活習慣の一体的な取組である「60プラスプロジェクト」の推進を図ります。特に、令和4年4月から稼働する西和賀町総合給食センター事業の一環として児童生徒に対する食に関する学習を行い、よりよい食習慣の確立に努めます。

また、コロナ禍にあつて児童生徒の心身に及ぼす影響が心配される現状です。家庭や地域及び医療・福祉関係機関等と連携した西和賀町学校保健会の活動を支援し、児童生徒自身が自らの健康管理をマネジメントする力を身につけられるよう進めて参ります。

こうした取組の推進にあたっては、教職員の研修と職務に専念できる環境づくりが大切となります。ICTを活用した授業等に関わる研修の機会の保障と、西和賀町の自然・文化・歴史・人・産業そして町づくりを知っていただく研修も行います。

長時間勤務の改善及び業務負担の軽減を図るために導入した「統合型校務支援システム」を活用し、勤務実態の調

査を行い、このシステムの効果を検証して効率的な校務の推進にあたります。また、今まで学校が担っていた給食会計業務を公会計化に切り替え学校業務の軽減を図るとともに、生徒と関わる時間を十分に確保するため、引き続き「教育相談員」を配置します。また、新たに「部活動指導員」を配置し、教職員の職場環境の改善を図って参ります。

次に、今年度創立 50 周年を迎える西和賀高校の魅力化について申し上げます。習熟度別・少人数指導を柱とする学習の保障と、岩手県教育委員会から打ち出された「いわての高校魅力化グランドデザイン for 2031」に示された、学校と行政が連携し、地域や地域産業を担う人づくりを推進します。

これまで進学や就職等の実績を支えてきた公営塾や課外授業等の学習支援や語学研修支援等を継続します。併せて県外募集に向け、体制整備推進員を配置するとともに「地域・教育魅力化プラットフォーム」に参加し、本格的に情報発信・PR活動を展開して参ります。また、町内企業等とコラボレーションした新たな学びの開発を推進し、町民

に活力を与えられる学校になるよう支援して参ります。

最後に保育についてです。この時期は人間形成に極めて重要な時期であり、その後の学習や生活の基盤づくりとなります。そこで子育て世代が安心して生み育てられる環境の実現に向け、新たに「ゼロ歳児保育」についての検討を行います。各保育所（園）と医療機関、そして町民も含め広く意見を求め検討して参ります。

以上、ここに生まれ育った子どもたちが、各保育所（園）、各小中学校、そして西和賀高校での18年間のキャリアを積むことで、町を知り、町に誇りをもち、町の魅力を発信し、町の未来について語り、そして町を支え、どんな社会でも臆することなく生き抜ける人材を育て上げて行く所存であります。

## ○「誰もが参加できる生涯スポーツの振興」について

スポーツの振興では、町民が生涯にわたり多様な形でスポーツに親しむことができる「健康で活気あふれるまちづくり」を目指し取り組んで参ります。特に高齢化が進む本町において、健康を維持するためには身体を動かす機会と世代間交流を図る場を設けることが重要と考えます。

そこで、今年度も引き続き気軽にスポーツに取り組むことのできる環境の整備と、いつでもどこでも運動する機会を増やすため、スマートフォンアプリを活用しての取組を推進して参ります。また、スポーツに関わる各種競技団体への活動支援と連携強化を図り、町民が様々な競技に触れ、それぞれのスポーツの素晴らしさに気づく取組を行って参ります。

また、スキー競技は本町の自然や地理的環境から町民からも広く愛され、大会開催時には町外からの参加者も多く集っております。利用者と管理する方々にとっても安全な施設として維持管理するために、志賀来スキー場の圧雪車を更新し、環境を整備するとともに利用者増のための取組

を推進して参ります。

昨年は期待どおりの活動はできなかったものの「東京2020 オリンピック・パラリンピック」のレガシーとして関わりを持つことができた自治体とのスポーツの交流を行い、関係人口を広げる活動にも取り組んで参ります。

### ○「地域の歴史や文化の継承と創造」について

文化芸術は心豊かな生活を実現していく上で欠かせない活動であり、この地域の歴史や文化は、西和賀町への愛着と誇りを形成し「生きる」ための心の拠り所になっております。今後も、町民が文化芸術活動に親しむことができるよう、関連する団体と連携しながら発表の場を提供し、伝承・保存に努めて参ります。

その拠点となる文化創造館「銀河ホール」を演劇活動の中心的な場と位置付けながらも、町内は勿論、町外から訪ねてきた方々に対しても、西和賀町の自然・文化・歴史・産業・人等、様々な町の魅力を発信する場とする試みに取り組みます。そして、「ここに住む方々、訪ねてきた方々が

気軽に足を運ぶ場所・寄りたい場所」と位置づけ、町民にとって必要とされる施設としての在り方と施設の維持・管理の在り方も引き続き検討して参ります。

現在、我が国最古級の旧石器時代の遺跡である「大台野遺跡」については、東北大学の資料提供の依頼を受け、研究室学生の教育活動の一環として調査研究が進められています。また当町はその位置関係から古くより岩手と秋田の往来に深く関与しており、「秀衡街道」のように平泉の栄華を偲ばせる名所が残るなど歴史的風土のある土地です。これらの歴史的資源について関係する諸団体と連携し、「西和賀町歴史民俗資料館」を町民の「誇り」を育てる施設として整理して参ります。

以上、令和4年度教育行政の具体的な方向性について申し上げます。前述した「私たちは役立っているのか」の問いの答えを町民の皆さんと共に一体となって求めつつ、長い歴史の中で培われてきた文化や伝統を大切にし、ふるさとに、誇り・愛着・感謝の心を持つ人材の育成に取り組

み、「未来を拓き 地域を愛する人を育てるまちづくり」の  
実現に努めて参る所存ですので議員並びに町民の皆様のご  
理解とご協力を心からお願い申し上げます。